名・色・自然

いしょくじゅう

第11回 ～そこに坂があるから～

第七回を迎えたおおつち新山高原ヒルクライム2023。
今年も177名のヒルクライマーが、高低差864メートルの激坂に挑んだ。
彼らを虜にする坂の魅力（魔力）とは。

～ヒルクライムとは～

「ヒルクライム」とは、山岳や丘陵を走ることを意味したもので、厳格な定義があるものではないものの、坂を上るコースであればヒルクライムという。

～コースの特徴～

おおつち新山高原ヒルクライムのコースは、小鎚種戸をスタートし新山高原展望台に至る全長約13キロメートル、高低差役864メートル、平均勾配約6・6パーセントの坂を駆け上がるコースである。一般的には、10パーセントを超える勾配の坂が急坂と言われているため、数字だけ見るとそれほどでもないように感じられるかもしれないが、あくまでそれは「平均」ということ。場所によっては、12パーセントを超えるところもあり全体をみるとハードなコースといえる。

さて、新山つつじが満開を迎えた5月28日（日）、第七回おおつち新山高原ヒルクライム2023が開催され、北は青森県(むつ市)、南は大阪（大阪市）・奈良（斑鳩町）までの県内外から177（レース168名、パレード9名）名のヒルクライマーが大槌町文化交流センターおしゃっちに集った。

例年より、若干ひんやりとした空気に包まれる中、メイン会場のおしゃっちを グループに分かれて一斉に出発し、スタート地点までのパレード区間を、選手各々がウォーミングアップを兼ねて走った。途中、桜木町や小鎚では町民の皆さんから暖かい声援を受けながらレース前のゆったりとしたひと時を過ごした。

スタート地点に到着すると、いままでのリラックスした空気から一転、スタート前の緊張した空気に包まれる。そして、選手各々のタイミングでスタートを切った。スタート地点から約1キロメートル、一の橋を渡り、山の神が祀られた社を過ぎたところまで最も急な坂が現れる。その後、中間地点の明神平で満開の新山つつじが出迎え、新山牧場に放牧されている牛が草を食む姿が見られる。

そして、残り3キロメートル付近から風車が見え始め、展望台までの急坂でゴールまで駆け上がる。しかし！ それで終わりではない。ゴール地点から、展望台まで、あと少し。最後の坂を上り切った後にやっと広場が現れるという走りがいのあるコース設定となっている。

沿道からの声援に、笑顔で手を振る選手の皆さん